

第6学年 家庭科学学習指導案

は組 男子 16 名 女子 17 名 計 33 名

指導者 江 平 佳 代

1 題 材 気持ちよく生活しようⅢ～快適生活プロジェクト～

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

この期の子どもたちは、整理・整頓や清掃、冬の住まい方の学習を通して、家庭生活や季節に応じた生活の大切さに気付いている。また、健康面や安全面などの観点から家庭生活に応じた快適な生活の工夫について考えることを通して、家族の一員、消費者の一人として自分だけでなくみんなが気持ちよく生活できるように住生活を整えられるようになりたいという願いをもっている。

そこで本題材では、快適に生活することに関心をもち、健康・快適・安全や環境・消費、協力・協働などの考察する視点をもって追求する活動を通して、季節の変化に合わせた住まい方の大切さや季節に応じた日常着の着方、食事のとり方について理解し、季節の変化に合わせて生活できるようになることをねらっている。また、健康面や環境・消費面、生活文化などの観点から、場所や時間に応じて、暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音などを工夫し、家族の一員、消費者の一人としてよりよく快適に生活するために、実践していこうとする態度を高めることをねらっている。

これらの学習は、家族の生活と住空間との関わりについて考え、住居の基本的な機能について知ったり、家族の安全を考えた住空間の整え方を工夫したりする中学校の学習へと発展していく。

(2) 指導の基本的な立場

快適とは、心身ともに健康に過ごすことができ、人間を取りまく衣服や住まいなどが清潔で気持ちがいいことである。また、光環境、温熱環境、空気環境などの衛生的な環境条件を整える必要がある。古くから日本の住まい方は、日本独特の風土や地域と特性、文化を生かしながら工夫して生活していく術が受け継がれてきた。しかし、現代では、住居の防音性や断熱性などが高まり、空調整備が普及し、簡単に快適な生活を可能にしている。一方で、気温の変化に体が順応できず、健康の保持等に問題が起こっている。これらのことから、自分の住生活を多角的に捉え、工夫することは、主体的に家族の一員、消費者の一人として、快適な生活を送るために大切なことである。

そこで、本題材では、よりよい住まいの工夫について追求していくことを通して、季節の変化に合わせて快適な生活ができるようにするために、健康面や環境・消費面、生活文化などの観点から住まいの問題を捉え、家族の一員、消費者の一人として、主体的に住まい方を工夫しようとする実践的な態度を高めることを大切にしたい。

具体的には、まず、夏を快適に過ごすために問題を解決していきたいという思いや願いを高めるために、生活を振り返らせ、家庭や地域、社会における具体的な場所から夏の住まいの問題を見だし、追求課題を設定させる。その際、どのようなことを考えて課題解決していくのか見通しをもつことができるようにするために、夏の住まいの問題を捉えられるような共通課題を設定し、問題を解決するときの観点を見いださせる。次に、快適に過ごす工夫をどのようにして見いだしたのかを明確にして情報交換する場を設ける。さらに、友達や自分が見いだした住まい方の工夫と自分の問題を関連付けながら実践計画を立てさせ、実践し、報告会を通して、よりよい住生活をつくり出していこうとする実践的な態度を高めることができるようにする。

これらの学習を通して、子どもたちは、住生活を快適にするよさや快適に過ごすための工夫を見だし、家族の一員、消費者の一人として、住生活を多角的に捉え、見いだした工夫を家庭に生かしたり、地域で生かしたりしていこうとするなど、よりよい住生活を実現しようとすることができるようになる。このような学習を積み重ねることで、生活から問題を見だし、住まいを整えることを通して、家族の一員として家庭生活をよりよく工夫していこうとしたり、消費者の一人として地域や社会でよりよい住生活をつくり出していこうとしたりできるようになっていく。

(3) 児童の実態（質問紙法、複数回答有り）

- | | |
|---|--|
| ① | 5年題材「冬を快適に過ごそう」の学習で分かったこと
効率面 28（換気の仕方、部屋の温め方、衣服の着方）、健康面 16（換気の必要性、食事の工夫、結露の防止方法）、環境・消費面 16（部屋の効率的な温め方、食事の工夫、効率的な採光の仕方） |
| ② | 5年題材「冬を快適に過ごそう」の学習後、実践できたこと
効率面 25（換気、衣服の工夫、部屋の温め方）、健康面 16（換気、食事の工夫、結露を防ぐ方法）、環境・消費面 16（節電、部屋の温め方、食事の工夫、自然採光）、なし 3 |
| ③ | 夏の生活で困ったこと
快適さ 21（汗、暑い、湿度が高い）、衛生面 20（痛みやすい、カビ）、健康面 18（日焼け、夏バテ、熱中症、バランス、冷え）、消費面 16（電気代、食費）、心理面 12（虫） |
| ④ | 夏を快適に過ごすためにできる工夫
環境・消費面 28（窓を開ける、エアコンの設定温度、うちわ、緑のカーテン、打ち水、すだれ、蚊取り線香）、健康面 5（服、食事）、心理面 3（風鈴、色）、効率面 1（扇風機の置き方）、分からない 1 |
| ⑤ | 学習方法
実験・試す 17、本・教科書 16、インターネット 14、インタビュー11、話し合う 3、自分の経験 3、これまでの学習を生かす 2 |

本学級の子どもたちは、①より、冬の住まいの学習を通して、消費面等の観点から、暖房だけに頼るのではなく、効率よく部屋を温められたり、健康面の観点から効率的に換気ができたりすることを理解していることが分かる。②より、多くの子どもたちが冬の住まいをよりよくしていこうと家庭生活で実践していることが分かる。しかし、実践できていなかったり、実践したことが少なかったりする子どもたちがおり、見いだした工夫を家庭や地域、社会で生かすことができるよさを感じていないと考えられる。③より、汗をかいたり、食べ物が傷んだりするなど日常生活で気温が高く湿度が高い状態を快適に感じていないことが分かる。④より、窓を開けて風を通したり冷房の設定温度を工夫したりするなど、多くの子どもたちが夏の住まいについて環境面や消費面の観点からの工夫に気付いていることが分かる。しかし、健康面等の観点からの工夫に気付いている子どもたちは少ない。このことから、夏の住まいについて問題を多角的に捉えられていないことが考えられる。

⑤より、実験等体験したことをもとに課題を追求していく必要性には気付いているが、友達と考えを伝え合い、見いだした工夫が有効であるかどうか吟味したり、友達の考えと自分の考えを比較して新たな考えを見いだしたりする必要性には気付いていない。

このようなことから、家庭や地域、社会を多角的に捉えて夏の住まいの問題を見いださせ、課題を設定し、観点を生かしながら快適に過ごすための工夫を見だし、家庭や地域、社会で課題を解決していけるようにしたい。そして、よりよい住生活をつくり出していけるようにするために、追求活動をする中で見いだした工夫と自分の問題を関連付け、よりよく快適に過ごすことができるような工夫を見いださせ、どのような考えで生かしていこうと考えたのか、自分なりの考えをもち、主体的に家庭や地域、社会で実践をさせたりしていきたい。

(4) 指導上の留意点

- ア 子どもたちに快適に過ごすために問題を解決していきたいという気持ちを高めさせるために、夏の生活を振り返り、家庭や地域、社会の問題を見いださせ、課題を設定させる。また、問題を多角的に捉え、快適に過ごすための工夫を追求していくことは、家族の一員、消費者の一人として生活をよりよくしていくことができるという目的意識を明確にもつことができるようにする。
- イ 課題意識をもって追求活動を行い、互いに追求したことをもとに、自分たちの問題を解決することができるようにするために、課題別にグループを編成する。また、これまでの生活経験や住まいの学習を想起させ、効率的な換気の仕方や生活文化を自分の問題と関連付け、工夫を見いだすことができるようにする。そして、それぞれのグループで課題解決したことをもとに情報交換する場を設ける。その際、工夫がどのような観点をもとに見いだされたのかを説明させ、友達と自分の考えを同じ観点から比較してよりよい工夫を見いださせる。
- ウ よりよく快適に過ごすための生活の工夫を見いだすことができるようにするために、見いだした工夫と自分の問題を関連付けさせ、家庭での実践計画を立てさせる。そして、家庭で実践した成果や課題を報告し合い、友達の報告から新たに見いだされた工夫や実践での課題を関連付けて計画を改善させ、家庭や地域、社会での実践の意欲を高めることができるようにする。

3 目 標

- (1) 季節の変化に合わせた住まい方や日常着の着方、食事のとり方などについて進んで調べ、快適に生活しようとする事ができる。
- (2) 快適に生活するために、暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音などを健康面や環境・消費面、生活文化などの観点から、自分の考えと友達の考えを関連付け、季節の変化に合わせた住まい方のよりよい工夫を見いだすことができる。
- (3) ・ 場所や時間に応じて暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音などを工夫した住まい方が分かる。
・ 快適に過ごすために場所や時間に応じた住まい方の工夫を家庭で実践することができる。

4 指導計画（全8時間）

過程	学ぶ喜びや楽しさ	主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
みつめる・つかむ・見通す 追求する	夏は、暑くて汗をたくさんかいて気持ちが悪い。湿度も高いな。	1 夏の生活の問題について考え、学習テーマを設定する。① 快適さ：汗、暑い、湿度 消費面：電気代 心理面：虫 健康面：日焼け、熱中症 など	○ 生活を振り返り問題を見いだすことができるようにするために、身の回りにどのようなところがあるかを想起させ、住まいや公園などの写真を提示し、家庭や地域、社会で夏の住まいにはどのような問題があるのかを問う。 ○ 課題解決に向けて、どのように追求活動をし実践したりしていくのか見通しをもつことができるようにするために、夏の住まいの課題を解決する観点を見いださせる。その際、自分の家庭の問題と比較できるような共通課題を提示し、追求課題を見いださせる。 ○ 快適な生活について多角的な観点から追求活動を行うことができるようにするために、子どもたちの追求課題をもとに、暑さ・寒さ、服の着方、食事のとり方、通風・換気などの課題別にグループを編成し、見いだされた観点を生かしながら、追求活動を行い、課題を解決するようにする。 ○ 自分の問題を解決することができるようにするために、課題別グループで追求してきたことを情報交換する場を設け、見いだされた工夫と自分の問題を関連付け、解決策を見いださせる。 ○ 学習したことを生活で生かすことができるようにするために、情報交換を通して気付いた友達が見いだした工夫と自分の問題を関連付け、家族の一員、消費者の一人としてどのような観点から工夫を生かしていくかを考えさせ、実践計画を立てる。 ○ 家庭や地域の生活をよりよくしたいという実践への意欲を高められるようにするために実践報告会を行う。その際、自分の実践したときの課題と友達の成果や考えを関連付けさせ、課題を解決させたり、新たな工夫を見いださせたりして実践計画を改善できるようにする。
	電気代が上がると分かっている冷房を使ってしまう。環境にもよくないな。 環境面や消費面のことも考えて涼しい住まい方を追求して、追求したことを広げたいな。 打ち水は、水をまくから温度が下がると思っていたが、気化熱の仕組みを利用していただ。昔の人たちが生み出した文化はすごいな。 冷房だけでなく、扇風機と一緒に使うと風の流れができて効率的に冷やせるね。電気代の節約にもつながりそうだ。 自然の力を利用することで環境面や消費面にもよさそうだ。冬の住まい方のときと同じだ。 どの季節においても環境面や消費面などの観点を大切にしていこう。家庭だけでなく地域や社会にも広げていきたいな。	みんなが快適に過ごせるような環境に優しい住まいの工夫を提案しよう。 2 共通課題から住まい方について考え、気持ちよく生活するために追求する課題を明らかにする。② 3 課題別グループで、課題を解決するための追求計画を立てる。③ 4 暑さ・寒さ、通風・換気、採光及び音などの課題別グループに分かれて、追求活動を行う。④⑤ 暑さ・寒さ 通風・換気 採光 音 健康面、環境・消費面、生活文化など 【健康面】エアコンの設定温度、食事、着方 【環境・消費面】緑のカーテン、エアコンと扇風機の効果的な併用方法 【生活文化】打ち水、すだれ、よしず、食事、風鈴 【衛生面】通風・換気、除湿 など 5 追求して明らかになった結果について、グループ間で情報交換をする。⑥（本時） 暑さ・寒さ 【効率面】全体を涼しくするためにエアコンと扇風機、両方使おう。 通風・換気 【効率面】風通しをよくするために、対面の窓を開けよう。 採光 【環境・消費面】直射日光を遮るためにすだれやよしずを使おう。 音 【心理面】風鈴の音を聞くと涼しく感じられるね。 着方 【衛生面】汗をよく吸うから生地が綿や麻のものを選んで着よう。 食事 【健康面】旬の野菜は栄養価が高いから食べるようにしよう。 場所や時間に応じて健康面や環境・消費面などの観点を生かした自然や身近な物の効果的な利用を考えればよい。 6 調べて分かったことをもとに意見交換をし、家庭や地域での実践計画を立てる。⑦ 7 家庭や地域などで実践したことについて報告会を行う。⑧	
まとめる・生活化の意付け			

5 本時（6／8）

(1) 目 標

よりよく快適に過ごすためにどうすればよいのか進んで考え、課題別グループで見いだした工夫をもとに情報交換することを通して、健康面や環境・消費面、生活文化などの観点から、場所や時間に応じた住まいの工夫を見いだすことができる。

(2) 本時の展開にあたって

本時の展開にあたっては、よりよい住まいの工夫を見だし、生活に生かすという目的意識をもたせるために、「見いだした工夫はどのように生活に生かしていけるのだろうか」と問う。そして、場所や時間に応じて自然や身近な物を効果的に利用していく必要性に気付くことができるようにするために、それぞれの工夫を場所や時間で整理しながら板書したり、構造や仕組みを図で提示したりして、自分の生活に生かしていけるような学習を展開していきたい。

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ																											
みつめる・つかむ・見通す	1 課題別グループで今までの追求活動について振り返り、学習課題を設定する。 昔の人はよしずやすだれをつけて暑さをしのいでいたみたいだよ。 他のグループはどのようにして工夫を見いだしたのだろう。自分の生活に生かせることはないかな。 よりよく快適に過ごすためには、どのようなことを考えればよいのだろうか。	(分) 5	○ 見いだした工夫を生活に生かしていくという目的意識をもたせるために、前時までの学習を振り返り、課題を設定する。その際、「見いだした工夫はどのように生活に生かしていけるのだろうか」と問い、生活に生かす際どのような考え方をすればよいのかという問題意識をもたせる。																											
	2 追求したことの情報交換を行う。 自分の工夫 ← 健康面・環境面・消費面・生活文化など → 友達の工夫 <table border="1"> <thead> <tr> <th>通風</th><th>採光</th><th>暑さ</th><th>音</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 対面の窓を開ける</td><td>・ すだれ</td><td>・ よしず</td><td></td></tr> <tr> <td>・ エアコンと扇風機の併用</td><td>・ 打ち水</td><td>・ ござ</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>・ 緑のカーテン</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>・ 風鈴</td><td>・ 虫の声</td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>・ 色の効果</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>など</td><td>・ 着方</td><td>・ 食事</td><td>など</td></tr> </tbody> </table> 場所、時間、自然や身近な物の仕組み など	通風	採光	暑さ	音	・ 対面の窓を開ける	・ すだれ	・ よしず		・ エアコンと扇風機の併用	・ 打ち水	・ ござ			・ 緑のカーテン				・ 風鈴	・ 虫の声			・ 色の効果			など	・ 着方	・ 食事	など	25
通風	採光	暑さ	音																											
・ 対面の窓を開ける	・ すだれ	・ よしず																												
・ エアコンと扇風機の併用	・ 打ち水	・ ござ																												
	・ 緑のカーテン																													
	・ 風鈴	・ 虫の声																												
	・ 色の効果																													
など	・ 着方	・ 食事	など																											
追求する	3 自分の住生活で生かせることを明らかにする。 昔の人たちの知恵は今の生活にも取り入れていけそうだよ。自然や身近な物を使うから環境面にも消費面にもよいね。		○ よりよく快適に過ごしていくための工夫を見いだすことができるようにするために、自分たちのグループの工夫と友達のグループの工夫を比較させ、共通点を見いだすことができるようにする。																											
	4 学習のまとめをする。 場所や時間に応じて、健康面や環境・消費面などの観点を生かした自然や身近な物の効果的な利用を考えればよい。	15	○ 場所や時間に応じた工夫の必要性に気付くことができるようにするために、いつどのようなところで打ち水をしたり物を設置したりしたらよいのかを整理しながら板書をする。																											
まとめる・生活化への意欲付け	5 本時の学習を振り返る。 日光が差し込む方角や風向きを考えてすだれやよしずは設置した方がより効果的に使えそうだ。リビングの南側の窓のところに窓から離してよしずを置きたいな。		○ 自然や身近な物の効果的な利用のよさに気付くことができるようにするために、構造や仕組みを図で提示して共通点を問う。																											
			○ 工夫を生活に生かせるように、他の班の考えと自分の課題を関連付け実践につなげられるようにする。																											